

# 只今、二度目の成人式

# つるのり人声

(つるのり)

## 市民が豊かに交流を深めながら、発展を!

連合婦人会長 天野千代子さん

栄養改善推進も背負っていて、まだその役割は大きいと思いますね。

数ある思い出の中でも、皆さんの代表として天皇陛下、皇后陛下にお目にかかれ、お話しさせていただいたことは、私には身に余ることです。その時の写真は、生涯の宝です。

二十一世紀を目前にして、婦人の果たす役割は益々大切だと思えますし、これからもこの活動に多くの人に加入してもらい、交流を深めながら、それぞれが向上することによって地域社会に貢献できて、都留市が発展し、いい方向に向かってもらいたい。なんといっても、市民が豊かに触れ合って、子供からお年寄りまで分け隔てのない人生を、幸せに送ってもらえたら最高ですね。

写真



連合婦人会も昭和二十九年に市制と同時に発足しましたので共に四十年なんです。会長としてはもう六代目です。発足当初は活動は盛んでしたが、時代とともに活動の社会的役割も変化してきていますが、都留の婦人会は、愛育会や、交通安全母の会、日赤奉仕団や、

## 文化はソフトの部分の充実が大切!

壁画家 橋村 元弘さん

写真



京では何でもすぐ手に入っていたんですが、こちらにきてからは画材や資料が無くて、最初は戸惑いましたが、今はもう慣れたんで予測できるものはストックしておいてやっています。仕事のことを考えれば都会の方がいいんだけど、結局気持ちのゆとりだとか内面的なことを考えれば僕にはここがあっています。全国各地への交通の便も割といいですね。

都留に引越してこの四月で丸三年です。建築物の壁画をつくるのが仕事です。都留市のふるさと文化ホールの壁画なども手がけました。現在、都留の文化ホールは三年前から設計に参画しています。都留の良さは何と言っても自然ですね。東

これからの都留市は、これまで以上にひとつとひとつ文化のレベルを上げる必要があります。住んでいる人達はあまりそのことに気が付かないと思うんですが、ソフトの部分はどう充実していくかですね。市民意識をどう持ち上げるかが課題でしょう。そのために私たちも努力していきたいですね。

# もつと自由な精神を育てる文化都市に！

漫画家 小林 博美さん

## 写真

生まれてからずっとここに住んで、少女向けの漫画を描いています。高校を卒業して、どうしても漫画家になりたかったのでデザイン関係の学校に通ったんです。出版社に投稿して新人賞を取って小学館からデビューしました。自宅からでも人が思うほど不便ではな

いです。でもやはり材料を仕入れるのが大変ですね。

月に何回か東京に行って帰ってくると、こちらの山が見えるとはっとするんですよ。都留の山なみは何とも言えない優しさがありませんし、こんな自然をいつまでも大切にしたいと思います。守っていくのは大変ですけど、壊すのは簡単ですからね。

私の読者層の若い人へ、やはり夢があったら頑張ってくださいと言いたいですね。十代なんていうのは可能性の塊だから・・・。都留も四十年でしたらまだまだ若いですから、文化ホールも建設されますが、もつと文化人を排出するような都市になって欲しいし、文化人に限らずもつと自由な精神を持った人を育てる都市になって欲しいですね。

# 自分たちの街にもつと誇りを持つとう！

元都留青年会議所理事長 小保 政英さん

## 写真

青年会議所の活動を続けて十年ですが、昨年「つるの宝」というカードを発刊し、「自分たちの街を知り、もつと誇りを持つとう」と宝探し運動を始めました。ここに住む人は、まだ東京に目が向いている人が多いですね。街のイメージを変えるた

めにはただ外を向いて考えるのではなく、住んでいる人から変わらなければだめだと思わし、街はここに人達がいたいところと思わないと、やっぱり本当のよさじゃないと思うんです。都留市の方っていうのは、自分の街を本当の意味で宝にしないっていうか、大事にしない人がまだ多いと思うんですね。生まれてずっとここに住んでいますが、住んでみて気候はいいし、災害もよそと比べて結構少ないですね。他にも良さはいっぱいあると思いますよ。それぞれが自分の「宝」を発見してほしいですね。

将来の都留市は人口を四万〜五万になるようにしたいですね。リニアの実験線の完成後のことも大切ですし、それに地域の良さを生かした特色ある街づくりも必要でしょう。

# ここから何を発信するかが大事です！

ファイナンチスト 佐藤 顯彦さん

## 写真

生まれた時からずっと都留市に住んでいますがこういう環境は風景画を描くとか、創作活動するときには大変いいんです。デビューしたときもこの住所だしね。ほとんどが東京へいかなきゃだめだと言われるけど、自分が技術を高め、プロのレベルにさえなれば

ばいと思っていたんで、東京へは出なかつたんです。その方が磨かれるし、創作に純粋に取り組めますね。こうしたイラストレーションやアートの世界は自分から何を発信するかですし、なにせここは東京にも最も近い果のひとつなんですから・・・。

人口にしてもモノコなんてほしいのくらい規模でしょ、それでいて魅力的な街ですよ。山梨県をどうしようか、都留市をどうするかと中だけを向いていないで、広い範囲で考えればいいんじゃないかと思っています。

物質的に発展させるんじゃないかと、教育水準にして、文化意識にしても、内面の充実を計れば、自然は申し分ないと思うし、小動物はいっぱいいるし。もつともつと広い視野で考えたいですね。

# 人生の長距離ランナーとして残すもの！

郷土史研究家 安藤千鶴子さん

## 写真

住んでいて、誰も気がつかないけれど、知らないやならない事が郷土の事なんです。遠く離れて見なければ郷土っていうものはわからないものです。市制が施行された当時の初代の市長さんをはじめ、大変な苦勞があったことを憶えています。

私は、小学校のころから郷土に興味をもちまして都留市の歴史についていろいろ勉強してきました。四十年見えてきて、今昔の感にたえないというところは大学の近所ですね。あの辺は田んぼばかりでしたけど、これから先、一番中心になるんじゃないですか。環境もいいし、水には恵まれ、山紫水明でいいところですよ。先日、野鳥が三十何種類もいるなんて素晴らしいと言われました。学園都市にはふさわしいと思います。

昔は地場産業が織物だったんですが、織物に変わる産業を考えてほしいと思います。わらべ歌の研究を今から十年くらい前からやっていますが、これからも郷土史の研究を続けて、長距離ランナーとして残すものは残していきたいですね。

# 声

# 人

# 大きな夢を開く、文化ホールに期待！

文化協会会長 松川 始さん

たんですね。

文化協会としては、ふるさと会館、女性センター、商工会議所ができてきて思いきり会場を使って、やらせてもらっています。街自体が比較的文化的にはまとまっていますし、いいと思いますが、もともと盛り上げたいですね。

大学の時にちよつと離れましたが、都留市はやっぱり若い頃から好きでした。帰ってきてます青年団活動に取り組みました。文化祭には谷村座と演劇コンクールなんかもやりましたね。当時はかなり活発で、勤めの方が少ないくらいですから、そんなに束縛されなかつ

## 写真

ひとつの夢とすれば、これから文化ホールもできることですし、フルに活用すれば相当飛躍した街になると思うんです。これからは運営だとか指導者をどういうふうにして養成していくかが課題ですね。大学生が核になって活用するとか、大胆に若い人を引き付けるような世界的なアーティストを呼んだり魅力ある講演会を開いたりといったアイデアも必要でしょう。

# この自然を残しつつ魅力ある発展を！

学生(都留文科大学) 岩波 令介さん

市民の誇りでもあります。

これからの都留市は自然が一番ですから、東京からの通勤圏で、こんなに自然があるので、それを残しつつ整備を整えていって欲しいです。古い街なので、狭い道なんかも多いので安全面の確保や、お隣りとのつき合いなんかは残して欲しいです。大学駅をつくるという話や文化ホールも今建設されていますが若い人や学生に魅力ある街になってほしいです。しかし、どんどん施設をつくることはいいと思うんですが、安全面にも配慮が必要だと思えます。

## 写真

都留に生まれて育って都留文大生ですが、街の良さは一度県外へ出て、違った目で見ないのでわからないところがありますね。小さい頃と今ではそんなに変わりはないようですね。学校自体は、県外の人が多いですね。全国規模の大学があるのが都留の特色ですし、

一度この街を出て、ほかの街に住んでまた帰ってきたときに、発展はして欲しい反面、風景や山並みは変わらない街にしてほしいと思いますね。



# いつまでも変わってほしくない暮らし良さ！

短大生 天野みどりさん

## 写真

生まれてからずっと都留で過ごして、甲府の大学までは電車で通いました。甲府に住む方がいと思つてそうしました。都留は自然はいっぱいありますし、住みやすいですね。近所とのふれあいも素敵です！

この辺はみんな仲がいいです。いろんな施設ができるのはいい事ですが、暮らしよさはあまり変わってほしくありません。ここに住んでの思い出は、小学校の時にお祭りで大名行列に出たこと。格式ある伝統の祭りがいつまでも続いてほしいですね。

学生時代はクラブ活動で、大学のラグビー部のマネージャーをやっていましたが、帰りが遅くなったりして大変でした。でも今は、楽しくていい経験でした。スポーツは桂高校時代に友達ラグビー部にいましてだったので大好きです。

また四月からは、八王子の就職先まで一時間くらいかけて通わなければなりませんけれど、いつまでも心ふれあう街であってほしいと思います。

# 自然あふれるキャンパスが素敵です！

学生(都留文科大学) 森 裕子さん

## 写真

私の故郷は北海道の石狩平野なので、第一印象は山の中というものでした。四年間通っていて、とても過ごしやすかったですね。買い物も東京へすぐいけますし、特にお水がおいしかったですね。学生が大学のそばに住んでいるのもこの大学の良さですし、全国

から集まっていますので、いろんなところの人と仲良くなれました。また市立の大学ということで、市民の皆さまとの交流もあって、楽しかったです。

自然が豊富なのでゼミでも山に入って蝶々を取ったりしたり、山小屋をつくったりしてとても他の大学じゃあできない体験ができましたね。富士山にも感激しました。

将来は北海道の公務員になりますが、この都留文科大学での生活は人生観を形成していくうえで大変役に立ちました。

筑波の学園都市は近代的な作られたものという雰囲気なんですけど、でも都留の学園都市は自然そのままなので、私はこういって自然あふれるキャンパスのイメージを大切に、そのまま整備して欲しいですね。